

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.25 2007年9月号

みなさんは北川八郎さんという方をご存知ですか？ 北川さんは普通のサラリーマンを経験された後インドを放浪し、現在は熊本県の阿蘇山中で陶器の製作と農業をしながら生活されている方です。過去2度にわたる40日間の断食という経験から、生き方についてのすばらしい考え方で多くの経営者の方に影響を与えている方でもあります。今月は北川さんの本の中から、「10%ぐらい損をして生きていく」というお話をご紹介します。

たとえば今1,000円の品物を売るとします。普通の人には1,000円の値段だったなら900円ぐらいのものを売ろうとします。ところが北川さんによれば、1,000円の値段だったなら1,100円ぐらいの品物を出してあげようとするのが大事だと言います。すなわち「奉仕の哲学」を持つことです。もちろん、商売をやる以上は儲けを出さないと続けていけませんから、これは心がけを説いたものだと言えます。

この「10%ぐらい損をして生きていく」という考え方は、商売に限らずいろいろなところで使えそうです。私たちは日常生活の中で自分の損にならないよう、少しでも得をするよういろいろなことを選択しがちです。でも、そうした目先の利益にとらわれていては繁栄することはできないと北川さんは言います。10%ほど良いものを人に与え続けると、仕事が充実し、対人関係もよくなるそうです。「良いもの」とは、人の喜ぶことややさしさ、思いやり、感謝、怒りを捨てることなどだそうです。100%の損だと生活のすべてをボランティアにささげなければならなくなってかなり厳しいと思いますので、10%というところがミソです。

そういえば、先日パソコンを買いに行った時のことです。店頭のパソコンでいいなと思ったのがあったので買うことにしたところ、店員さんが新品の在庫だと言って持ってきたのに、その場で箱を開けてみたら過去店頭で見本として使っていたものでした。私としてはそれでも全然かまわなかったのですが、店員さんとしてはまずいと思ったのか、在庫のない品物だから今買わないと、と危機感をあおる作戦に出てきました。でもそのトークが逆に私の買う気を失くしてしまい、結局そのパソコンは買いませんでした。もしそこで、新品ではないので10%ほど値引きしますからと言われていたら買っていたのですが。北川さんのいいお話の後にこんな小さい話ですいません……。

